



で、二重、三重の効果が出てきています。
和田 行田は、「のぼうの城」効果だけじゃないと思うんですけど、僕の小説を読んで、行田に来てくれる人がいるとしたら、それは作家冥利に尽きますね。そういう現実があるのは、すごくうれしいですね。

市長 「のぼうの城」をきっかけにして、まちに活力が出てくれば、こんな素晴らしいことはないと思っています。これを一過性のものにしたくない。リピーターに何回でも来てもらって、行田の良さを知ってもらいたいと考えています。この

千載一遇のチャンス逃すことなく、さらに行田のPRを加速していきますよ。

ウェルカムな雰囲気でもちづくりを

市長 行田のまちづくりについて、和田さんの考え、アドバイスなどあればお聞かせください。

和田 今の盛り上がりを一過性のものにしていないというのは、まさにそのとおりだと思いますね。建物などのハードに頼りすぎた観光客や見物人の誘致というのは、賛成できませんね。人間っていうのは、まちに活気があると来るんですよ。活気のある雰囲気であるとか、来て気持ちよかったなとか、行田市民ってすごくいい人だったなとか、そういうようなことで人はもう一回来ようと思うので、そういうソフト面を重視した今後の展開を考えてはどうかなと思いましたね。

市長 まず、行田の市民が、郷土愛に目覚めることが大事だと思います。実はこの小説のおかげで、市民がその郷土愛にもう目覚め始めているんですよ。これがまさにソフトの部分だと思います。そこで、8万7千人の市民総ガイド化を考えています。すべての市民の方が、観光客などから「このまちはどういうまちなんですか」と聞かれたときに「こういう歴史があるんですよ」と答えられるようにしたいんです。そうすると観光客との距

離がぐっと近くなる。それを目指しています。おもてなしという面でも大切ですし、それが郷土愛にもつながると思います。これからは、郷土愛をキーワードにまちづくりを進め、行田のまちをさらに元気にしていきたいと考えています。



和田 旅に行くと、もう一回行きたいなあって思うのは、やっぱり、そのまち全体がなんとなく、ウェルカムな雰囲気があるというところなんです。市民総ガイド化なんて、まさにそうだと思いますけど、気持ちよく教えてくれるとか、そういうようなことがあれば、また来たいなと思うので、そういう「ウェルカムな雰囲気」を醸し出している市になってほしいなと思います。

市長 まさにそのとおりだと思います。映画が公開されると、行田を訪れる観光客が増えることが見込まれます。そのときは市民の皆さんと一緒に、おもてなしの心で観光客をお迎えすることが

大切です。行田を訪れた方に、行田を好きになってもらい、2度、3度と足を運んでもらいたい。そうすることで、まちに活力とにぎわいが生まれます。世の中に閉塞感が漂っている中において、行田は今、比較的明るい話題が多く、市民の皆さんもさらなるまちの発展を大いに期待しています。こうした機運を生かして、和田さんのおっしゃる「ウェルカムな雰囲気」のあるまちを目指していきたいと思えます。今日はとてもいいアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

和田 ありがとうございます。

**和田竜さんサイン入り
「のぼうの城」文庫本プレゼント**

和田竜さんの直筆サイン入りの文庫本を上下巻セットで1人に、サイン色紙を3人にプレゼントします。希望する方は、住所、氏名、電話番号、市報ぎょうだの意見・感想を記入のうえ、2月28日(月)までにはがきまたはEメールで広報広聴課新春特別対談プレゼント係

【郵送】〒361-8601 行田市本丸2-5
 【Eメール】koho@city.gyoda.lg.jp
 なお、発表は発送をもってかえさせていただきます。

